

受入民家との交流に重点をおいた、ゆとりある体験活動の取り組み

せい よ なか すじ 西予市立中筋小学校

愛媛県西予市野村町高瀬4098

電話番号 0894-72-0807

FAX番号 0894-72-3807

全学級数	5学級
全児童数	44名
全教職員数	8名

活動地域と宿泊先

愛媛県今治市（しまなみ地域）

【受入組織：しまなみグリーン・ツーリズム推進協議会】 → 詳細は124ページ

地 域 名	宿 泊 施 設
今治市 しまなみ地域	大三島少年自然の家
今治市 しまなみ地域	農家民泊(4軒)(2泊)

活動のねらい



日常生活で接することの少ない、いろいろな自然に触れたり、その中での体験や人々と交流したりする場を設定し、てきぱきとした対応をし、きちんとした言葉遣いをしなければならない状況をできる限り経験させる。そのことにより、**社会人としての基礎的な資質を養い、たくましく心豊かに生きていける児童を育てる。**

これを子どもたちには、

- | | | |
|----------|-------------|-----------|
| ① 感謝しよう | ② 自然を大切にしよう | ③ マナーを守ろう |
| ④ 交流しよう | ⑤ 食料を大切にしよう | ⑥ 仲良くしよう |
| ⑦ 進んで働こう | ⑧ 感動しよう | |

という8項目のめあてとして提示した。

取り組み前の課題

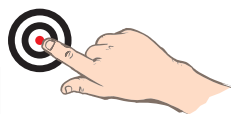
- (1) **長期宿泊になると、児童だけでなく引率者の負担も大きくなる。**

特に、小さい子どもがいる引率者や、女性の引率者については、家庭のことがあり、**役割分担等を含めた引率計画の工夫が重要である。**

民泊を何日目にするかにより引率者が必要かどうかに関係してくるので、体験活動の内容と合わせて考慮する必要がある。

- (2) 子どもが民泊をしている間、引率者がどのように過ごし、どのように関わるかも工夫が必要である。

対象学年・児童数	5年生・9名、6年生・6名	合計 15名
実施時期	平成21年7月21日（火）～7月25日（土） ※課業日は授業に差し支えるため、夏休み中の実施とした。	



活動地域の選定で決め手となったポイント

山に囲まれた農山村で生活している児童にとって、**海と島々で構成されたしまなみ地域で民泊を含む長期宿泊体験**をすることは、日ごろ接することのない、自然（サイクリング、海水浴、潮流体験、日食観察、塩工場見学等）や人々の暮らし、産業（舟釣り体験、地引き網体験等）に接することができ、**豊かな人間性を養うのに大変有効に働く**と考え、当該宿泊先を選定した。

※愛媛県教育委員会は、受入地域情報として、本校に対し県内の西条、内子、しまなみの3地域を紹介した。その中でも上記の条件とともに受入先の規模がマッチしたことから、しまなみ地区に決定した経緯がある。

活動の成果

- (1) 校長が以前勤めていた学校の関係者の協力で、ヒラメの稚魚放流を体験できたことが、漁船に乗ったことのない児童にとっては、事前にいい体験になった。
- (2) **校長※が窓口**になり、西予市教育委員会や教育事務所、そして、しまなみ地域の担当者との連絡・調整をしたことは、職員数が少ない学校にとっては、担任の授業や空き時間を気にすることがなかった。
- (3) 4日目の地引き網体験活動では、子どもだけでは人数が足りず、**P T Aの研修活動**として保護者にも参加を呼びかけ、**多くの保護者が参加**したことは、4日目の**子どもの様子を見ることができ安心感を与える**とともに、家族の交流が深められ、たいへん有意義であった。
- (4) 現地研修を2回行い、実際に自転車に乗ったり4軒の民家を訪ねたり、子どもたちの写真と手紙を送ったりしたことにより、スムーズに体験活動を行うことができた。

※小規模校であるからこそ、校長が対応可能。授業をもたないため、一般教諭と比較して作業を進める時間が取りやすい。

課題に対する解決策

- (1) 課題を解決するには、**職員の理解と民泊を中日に計画する**といいように感じる。
※民宿泊中は児童を民宿に預けることで、特に女性教員は必要がない。女性教員は合同宿泊中に配置できるように、民宿泊を2泊目と3泊目に計画することで解決できた。
5日間通しては校長と男性教員で対応した。
- (2) **P T Aの研修活動として保護者にも参加を呼びかけ**、保護者に参加していただいたことは、4日目の子どもの様子を見ることができ安心感を与えるとともに、兄弟を含め、交流が深められ、たいへん有意義であった。

体験活動の実施体制

学校の指導（支援）体制

(1) 校内推進体制

- 校内推進委員；校長、教頭、教務主任、研修主任、該当学年学級担任
- 留意事項
 - ・ 学校の教育活動全体で取り組む。
 - ・ 各教科等との関連を図り指導方法の工夫・改善を行う。
 - ・ 保護者や関係諸機関との連携を図る。

(2) 学校支援委員会

西予市立中筋小学校	校 長	西予市立中筋小学校	教 頭
西予市立中筋小学校	教務主任	西予市立中筋小学校	研修主任
西予市立中筋小学校	教 諭	西予市立中筋小学校	P T A 会長 愛護会長
西予市立中筋小学校	P T A 副会長	西予市立中筋小学校	P T A 副会長
西予市立中筋小学校	P T A 委員長	中筋公民館	館 長
しまなみ農業指導班	主 任		

配慮事項等（安全確保のための改善点、衛生上の留意点等）

安全確保

体験活動の内容が、1日に一つか二つのゆとりを持った計画にし、子どもたちがゆったりと、自然や人々との交流を図れるようにした。その中身は、できるだけ、家族だけでは普段できない海での活動を多く取り入れ、いろいろな自然や人々の生き方に触れるようにした。また、4軒に分けた民泊を2日間取り入れ、朝晩2日間の計4回の食事のうち1回だけ様子を見るために訪問する（1軒に1回は訪問し、教員も一緒に食事する）こととし、極力、子どもたちだけで民家の方々との交流を図るようにした。その間指導者は、電話連絡で様子をうかがい、緊急事態に対応できるよう車を用意していた。

感 想

保護者からの声

この体験活動を実施するに当たって、成果がすぐに現れることは期待していなかったが、活動後にアンケートをとったところ、保護者から次のような意見が寄せられた。

- ①手伝いをよくするようになった。
- ②用事を頼んでもいやいやしなくなった。
- ③「ありがとう」ということをよく言うようになった。
- ④自分のことを自ら進んですることが多くなった。



児童からの声

子どもたちからは、8つのねらい（①感謝しよう ②自然を大切にしよう ③マナーを守ろう ④交流しよう ⑤食料を大切にしよう ⑥仲良くしよう ⑦進んで働こう ⑧感動しよう）が十分達成できたという結果が得られた。



実施までの経過

- 平成21年 2月 西予市教育委員会より、「豊かな体験活動推進事業」の打診があった。
- 3月 教職員と協議のうえ、「豊かな体験活動推進事業」の実施を決定。
- 4月 文部科学省より「豊かな体験活動推進事業」の内定通知を受理。
P T A総会で「豊かな体験活動推進事業」の概要について説明。
- 5月 校長による現地下見を実施。
- 6月 校長ならびに引率教員で現地下見を実施。
- 7月 保護者説明会で最終説明。



ヒラメの稚魚放流
(事前学習)

活 動 内 容

事前指導

長期宿泊体験に向けての準備

- (1) 担当、係決め
- (2) 事前調査（保護者の不安、期待すること、児童の健康面等）
- (3) 活動準備
- (4) 自己紹介カード作り（顔写真と自己紹介カードを民宿へ事前送付）

日 程

月日	行 程
1 日 目 (7 月 21 日)	中筋小発 多々羅キャンプ場着 テント設営 昼食 海水浴 釣り等 夕食準備 夕食 自由時間 花火大会・天体観測 班長会・係会 班会・就寝準備 就寝・消灯  舟釣り体験

2
日
目
(7
月
22
日)

起床・洗面
朝食準備
朝食
テント撤収
サイクリング
(伯方島へ移動)
皆既日食観察
昼食
塩生キャラメル作り
(大三島へ帰る)
受け入れ式(民泊)
(2組伯方島へ移動)
夕食準備
洗濯
入浴・夕食
片付け
自由時間
就寝準備
就寝・消灯



日食観察



塩生キャラメル作り

3
日
目
(7
月
23
日)

起床・洗面
朝食準備
朝食
移動(大島へ)
舟釣り体験
11:00前後満潮
昼食
潮流体験(15:00前後最強)
移動(伯方島、大三島へ)
夕食準備
洗濯
入浴・夕食
片付け
自由時間
就寝準備
就寝・消灯



民宿での夕食

4 日 目 (7 月 24 日)	起床・洗面 朝食準備 朝食 移動(大島へ) お別れ式(民泊) 地引き網体験(海水浴可) ※PTA 活動の一環で、保護者も合流して一緒に体験した。 昼食 (バーベキュー) 移動(大三島へ) 入家式・避難訓練 夕べのつどい・清掃 夕食 入浴 キャンプファイヤー 就寝準備 就寝・消灯 地曳き網体験でタコを漁獲
5 日 目 (7 月 25 日)	起床・洗面 朝のつどい・清掃 朝食 反省 退家式後出発 塩工場見学 塩工場出発 亀老山展望台 昼食 亀老山出発 中筋小学校着 大三島少年自然の家での宿泊

事後指導

長期宿泊体験の事後指導

- (1) お礼状作り
- (2) アンケート
- (3) 発表会 (参加した児童が、保護者と4年生以下の在校生に対して発表)

「ひと・もの・こと」に積極的に関わる島暮らし体験3日間の取り組み

春日市立白水小学校

福岡県春日市白水ヶ丘1丁目100番地
電話番号 092-915-2525
FAX番号 092-915-2511

しろ うず

全学級数	20学級（特別支援学級1学級を含む）
全児童数	646名（実施当時）
全教職員数	26名（実施当時）

活動地域と宿泊先

長崎県壱岐市

【受入組織：壱岐体験型観光受入協議会】 → 詳細は126ページ

地 域 名	宿 泊 施 設
郷ノ浦町片原触	民宿
郷ノ浦町渡良西触	民宿
郷ノ浦町渡良浦	民宿
石田町筒城東	民宿
石田町南触	民宿

活動のねらい



- (1) 壱岐の「ひと・もの・こと」に自ら働きかけ、人から温かさを感じたり、自然のすばらしさに気づいたりして、体験の喜びや充実感を味わう。
- (2) 漁家民宿に滞在し、豊かな自然の中で多くの体験を重ねたり、自分たちで家事全般をしたりして、自分たちのこと自分でやり遂げるたくましさを身につける。
- (3) 地域の方との交流活動を通して、コミュニケーション能力の向上を図る。

取り組み前の課題

児童並びに保護者にとって大変価値が高い体験活動であるが、次年度からは国や県、市からの補助がなく保護者負担が増えるため、実施することができず、毎年、継続して実施できない。（事業の継続性の課題）



釣り大会



釣り大会

対象学年・児童数	5年生・91名
実施時期	平成21年7月10日（金）～12日（日）

活動地域の選定で決め手となったポイント



- (1) 体験活動の内容，種類（子どもが興味のある体験ができる。一人一人が十分に体験できる）
- (2) 受入体制の充実度（安心して児童を任せることができる）
- (3) 学校からの移動時間（児童に加重負担をかけることなく移動できる）

活動の成果

- (1) 2泊3日の体験活動を通して，食事の準備や後片付けなど日常的な体験を改めて行い，自宅へ戻ってからも，体験活動で身につけた経験を，実践化している児童が増えた。
- (2) 2泊3日の体験活動を通して，新たな人間関係の拡がりやこれまでの人間関係の深まりが強くなり、各学級の凝集性を高めることができた。



火起こし体験

課題に対する解決策

例えば，学校としては，修学旅行や社会科見学など，保護者に金銭の負担が生じる行事の内容等を見直して金銭の負担を減らし，このような事業を行っても，6年間トータルで保護者が負担する金額があまり増えないようにする策が考えられるが，やはり助成がないと，保護者には金銭的負担が多すぎると考える。基本的には，複数年（3～5年くらいは）継続して実施できるように，助成を行ってほしい。

体験活動の実施体制

学校の指導（支援）体制

(1) 支援体制について

農山漁村での体験学習を推進している株式会社農協観光の協力も得ながら、活動の充実・推進を図るようにした。また、「おやじの会」（有志の父親の集まり）に声をかけるとともに、開催期日を金・土・日と休日を入れることによって、参加体制がとれるように配慮した。

(2) 教師の関わり方について

教師は、児童との距離を取り、児童が自らひと・もの・ことと積極的に関わりを持つよう指導した。今回の体験活動では、二泊三日の間に教師が直接指導した場面は、行き帰りの交通機関の中だけであり、港に船が着き、民宿の方々が子どもたちをそれぞれ連れて行かれてからは、教師の直接指導を極力避けた。子どもたちだけの力で共同生活を送る中で、初めて自分を試したり、友達と力を合わせたりする必然が生まれるからである。また、困ったときに教師の手助けは無いわけである。そこで、何事にも「ひと・もの・こと」に積極的に関わることを通して、コミュニケーション能力を高められるようにした。

配慮事項等（安全確保のための改善点、衛生上の留意点等）

安全確保

(1) 現地踏査の実施

6月13日(土)～14日(日)に、教頭、5年生担任（3名）が現地踏査に行き、事前打ち合わせをもとに、宿泊先、活動場所などの現地調査、緊急医療機関等の受け入れ体制の確認、保護者説明会に向けた資料収集等を行った。

(2) 保護者説明会における受け入れ側からの説明

保護者説明会に、壱岐市の観光商工課の方々に参加してもらい、市長のメッセージの紹介や受入体制等の話をして頂くとともに、保護者からの質問に答えてもらうようにしたので、保護者の不安を解消することにつながったのではないかと考える。

衛生上の留意点

(1) 児童の健康状況調査の実施

事前に児童の健康状況調査を行い、食物アレルギー等についての把握を行い、受入施設との連絡調整を行った。

感想

保護者からの声

- (1) 離島式では泣いたということで、よほど、壱岐のお父さん、お母さんとの別れが名残惜しかったのだと思いました。
- (2) 帰ってきてからは、よく動いて手伝いをしてくれるようになりました。
- (3) 楽しそうに、魚釣り、塩作り、豆腐作り、海岸でゴミ拾いをしたことなど、いろいろな体験をしたことを話してくれました。普通では体験できない本当に貴重な時間を、ありがたく思っています。
- (4) みんなで協力したこと、学んだことを忘れずに、この先、成長していったほしいと思います。
- (5) 壱岐での話をいろいろと聞いて、本当にいろんな貴重な体験をさせていただいたんだなと思いました。民宿の方々と別れる時には、人前で泣いたことのない子が涙が止まらなかったと言っていました。「お金を貯めて、民宿に行く！」と約束したそうです。民宿の方々は大変温かい方々で、とてもよくして頂き、たくさんのことを学んで帰ってきたと思います。本当にありがとうございました。



児童からの声

体験活動の評価については、自由記述式、及び評定尺度によりアンケートを実施した。自由記述では、どの記述からも、体験活動を通して、「食事の準備や後片付けを行う中で、いつも母親に準備から後片付けまでやってもらっていることに感謝しなければ・・」という感想や「また、壱岐のお母さんに会いに行きたい」という感想など、体験活動が自己を振り返るきっかけになったことを示すものが大変多かった。



そして、自由記述の内容を分類すると、主な内容は「友達」「話合い」「健康」「貢献」「規範」の5つにわけられ、その中でも「友達」についての自由記述が30%を示していた。これは、「友達」との関わりが深まったことを示すものと考えられる。

また、「体験で身につけたことを、今でも続けていますか？」の質問について、自由記述式で回答を求めたところ、食事の準備や後片付けというお手伝いや地域の人へのあいさつなど礼儀に関わる記述を、60%の児童から得ることができた。

さらに、5つの体験活動について、5段階の尺度で、それぞれの体験の満足度を尋ねたところ、平均値で4.75という大変高い結果を示した。これは、どの体験活動も子どもたちにとって新鮮であったことが高い満足感につながったと考えられる。

実施までの経過

(1) 壱岐市観光商工課との事前打ち合わせ

期 日：平成21年 6 月 8 日（月） 17：00～

参加者：壱岐市観光商工課員 農協観光事業課長
校長， 5 年生担任（3 名）

内 容：○ 2 泊 3 日の具体的な日程

○ 活動の場所や留意点の確認

○ 受入体制や民宿に関する内容 等

(2) 現地踏査

期 日：平成21年 6 月13日(土)～14日(日)

参加者：教頭， 5 年生担任（3 名）

内 容：○ 事前打ち合わせをもとに， 宿泊先， 活動場所などの現地調査

○ 緊急医療機関等の受け入れ体制の確認

○ 保護者説明会に向けた資料収集 等

(3) 保護者説明会

期 日：平成21年 6 月18日（木） 19：00～

参加者：《学 校》校長， 教頭， 教務主任， 5 年生担任（3 名）

《保護者》80名（91名中）

《壱岐市》観光商工課課長， 観光商工課課員

活 動 内 容

事前指導

(1) 春日市の環境と壱岐市の環境等の違いに気づかせる。

子どもたちの生活と壱岐での生活や、春日市の環境と壱岐市の環境などの違いを意識するように事前指導を行った。そのためには、今の自分たちの生活や春日市の環境について再度触れる機会を持つようにした。

(2) 共同生活をする上でのルールやマナーを指導しておく。

親元を離れての二泊三日の共同生活を初めて経験する児童がほとんどであり、共同生活のルールやマナーについて学校で指導した。



ビーチ清掃活動



涙のお別れ

日程

月日	行程	
1 日 目 (7 月 10 日)	7:45 学校・出発式 8:20 学校出発 12:20～ 入島式 12:40～ 昼食 13:50～ 塩作り体験 16:30～ 各民宿に移動し、各民宿での活動 (夕食準備、夕食、後片付け、入浴、 1日目の振り返りなど) 就寝	 壱岐の方々の歓迎
2 日 目 (7 月 11 日)	起床、朝食準備、朝食、後片付け 8:30 イルカパーク集合 ローテーションプログラム (イカの一晩干し作り、 イルカのショーの見学) 11:30 昼食、海辺の散策 13:00 魚釣り体験 15:30 民宿へ移動し、各民宿での活動 (釣った魚の調理、夕食、後片付け、 入浴、2日目の振り返りなど) 就寝	 イカの一晩干し体験
3 日 目 (7 月 12 日)	起床、朝食準備、朝食、後片付け 8:00 ビーチコーミング 9:30 豆腐作り体験 11:30 ビーチ散策と昼食 12:30 離島式 13:20 フェリー出発 16:45 学校到着 到着式	 豆腐作り体験

事後指導

- (1) ホームステイ先へ感謝やお礼の手紙を書き、送付した。
- (2) 体験活動の学びを生活へ生かすようにした。

子どもたちは、体験したことを言語化したり映像化したりと記憶を残すような指導を行った。このことは、7つの宿泊所に分かれて宿泊していた子どもたちが、それぞれの宿泊所で何をしていたのかを知るために交流が生まれ、新しい友達のよさを知ったり、出来る自分に自信をもったりすることができた。

- (3) 体験活動の学びを学習に生かした。

- 体験したことを作文にまとめ、地域・保護者に発表する活動（国語科）
- 体験したことを絵に表す活動（図工）
- 日本の漁業のまとめを行う。（社会科）